



受講案内

2024

教室で、 セカイと 同期する。

- 総合科目(学士基盤科目)
〔科目番号1226151〕
社会基礎学Ⅰ
大学院生も所定の手続きにより履修可能
(詳細はP.14を参照)
- 大学院共通科目
〔科目番号0A00402〕
次世代モビリティと未来社会像
- 大学院共通科目
〔科目番号0A00401〕
多極化する世界とこれからの日本



筑波大学



JAPIC

日本プロジェクト産業協議会



この授業

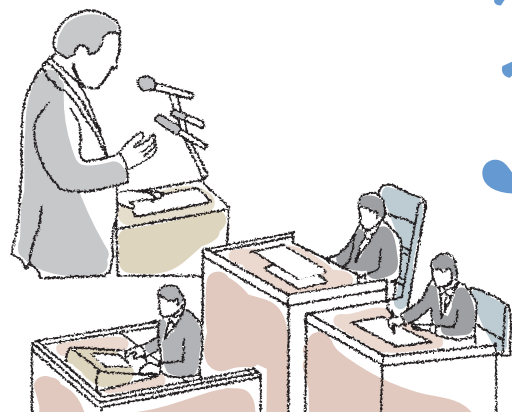
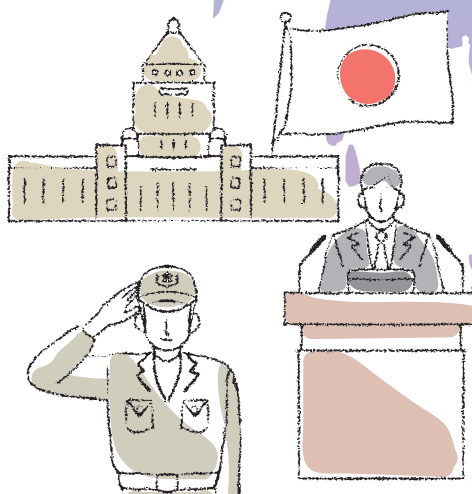
16つの

「グローバル化と地域の日本のあり方」と同期する

我が国は課題解決先進国といわれます。その課題とは、たとえば公害に対する環境保全や省エネルギー化、少子高齢化などへの取組みを挙げることができます。これら多くの課題のなかに、世界に先駆けて直面して取り組み、解決をみてきたものも少なくありません。またそれらの取組みには、ローカルな地域での取組みが、国としての取組みより活発な場合もあります。ローカルな取組みが世界に輸出できる、という考え方も現実味があります。そのようなGlobalとLocalな関係に光をあてて理解を深めましょう。

2「政治・政策」と同期する

平成27年(2015年)に公職選挙法等の一部を改正する法律が成立し、選挙権年齢が18歳に引き下げられました。すなわち、大学に入った皆さんにはすべて選挙権があることになります。しかし、選挙で選ばれた国会議員、地方自治体の長や議員はどのような役割を持つのか、そもそも政策の決定過程はどのようなものなのか、知っているようでわかっていないことも多いでしょう。そのような政治と政策の関係に光をあてて理解を深めましょう。



3「安全保障・憲法」と同期する

我々の普段の生活が守られ、生きて行けることは大事なことです。しかし、地球規模で見れば、国家間の争いや緊張が絶えない時世でもあります。我が国の第二次世界大戦での敗戦から、日本国憲法第9条に定めた戦争の放棄、世界屈指の経済大国に成長する過程などにおいて、国家間の安全保障に関する現代的な側面と現状を知ることはとても重要です。さらに昨今は、経済安全保障ということもいわれるようになりました。このような安全保障・憲法についての諸課題に光をあてて理解を深めましょう。

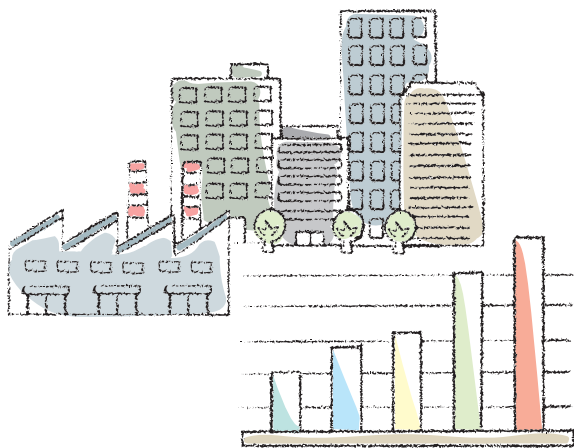
「同期する」とは？

「同期する」の意味は、期を同じくする、でしょう。「期」には、とき、定められた日時、示した6つのセカイも、年月を経るごとに変化し、日々動いているものです。ここでは、

で広がる

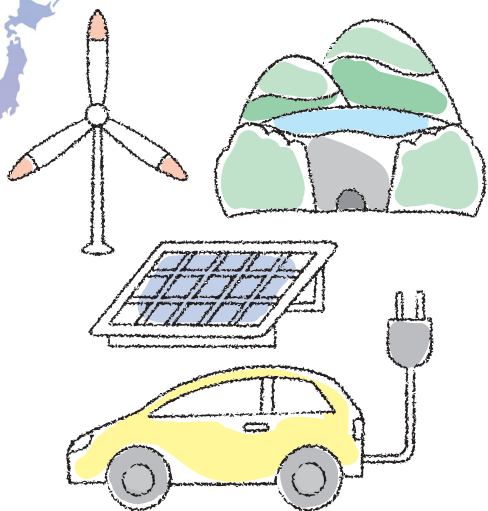
セカイ

4



「経済・産業」と同期する

我が国の経済は、1990年代のバブル崩壊前の勢いを未だに取り戻しておらず、失われた30年ともいわれています。米国はこの30年で堅調な成長を続けていますが、我が国はそのような成長ができなかった、という問題が指摘されています。世界経済の変化と日本の産業のあり方、世界の潮流にも目を向ける必要があります。経済の発展と産業の育成、企業のあり方についてどのように考えればよいのか、これらの諸問題に光をあてて理解を深めましょう。



「環境・資源・エネルギー」と同期する

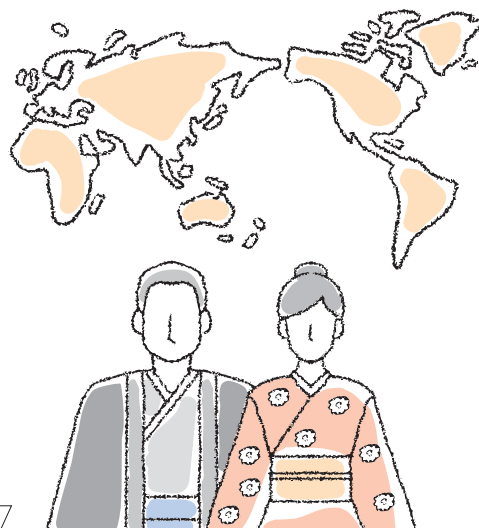
化石燃料の大量消費による地球温暖化は、地球規模課題の代表例です。これ以上の温暖化を防止するために、化石燃料の消費を可能な限り控える脱炭素、そして再生可能エネルギーへの転換が急速に進んでいます。エネルギー資源の確保や環境保全の問題は、GlobalにもLocalにも、国家と国家の間にも、そして経済や産業の面にも、縦に横に複雑に絡むものです。そのような環境・資源・エネルギーに関連する諸問題に光をあてて理解を深めましょう。

5

6

「世界／アジア」と同期する

国内における課題も多い中で、我が国は遠い国との国際協力も推進しています。このような国際協力の実践は、どのような思想・理念で行われているのかを知ることにも重要です。実は、グローバルと地域の日本、安全保障など、これまでに出てきた観点とも絡みあいます。中国の台頭と東南アジア諸国の対応、そして我が国との関係、米国やヨーロッパの政治が大きく変動する中で、我が国の外交もまた諸問題に直面しています。これらに光をあてて理解を深めましょう。



などの意味がありますから、「同期する」とは総じて相手のテンポや動きに合わせる、という意味を伝えるでしょう。ここにそれらに常に関心と興味を持ち続け、観察と理解を続けよう、という意味で「同期する」という言葉を当ててみました。

実際の最前線で活躍する方々の話は、机上の勉強では得られない

専門以外の視野が広がった

Student's Voice 授業に出席した

答えを知るのではなく
トップリーダーと共に考える場

知的好奇心を刺激された

Z世代の興味に刺さる、
第一線の声

総合学域群第1類

岩本 樹里 [Iwamoto Juri]

私はグローバル化に伴う経済発展と環境保全の間に生じるジレンマについて興味を持っていたため、第一線でご活躍なさっている方々から生のお話を聞けることに惹かれ、本講義の受講を決めました。実際、豪華な講師陣のお話には、現場を知るがゆえの重みを感じられました。内容に関しても、グローバル化と新型コロナの感染拡大やウクライナ戦争といったタイムリーな話題を絡めていらっしゃる方が多く、質問にその場でご回答いただけることもあり、非常にライブ感の強い講義でした。回を重ねるごとに、社会の事象には多岐にわたる分野が関連していることを実感し、そのような社会を理解すべく、学際的な視点を養って行きたいと思いました。

数多の社会課題に目を向けて、
自分の意見を持つ

社会・国際学群 国際総合学類

串田 匠 [Kushida Takumi]

さまざまな団体の方からお話を聞くことで日本や世界の課題をより深く理解できると考えたため受講を決めました。業界のリーディングカンパニーの役員の方や官公庁に勤務する公務員の方に質問ができたため貴重な機会になりました。EVや環境問題、安全保障、ダイバーシティ、日本経済全体といった事柄に関して、自ら新聞を読む中で生じた疑問を解消でき、理解が深まりました。自分の専攻外だからといって社会課題を看過せず、自分の意見を持つことがこの講義で大切だと実感しました。



人生の方向性に
迷いがあるならオススメ！
視野が広がります！！

理工情報生命学術院 システム情報工学研究群
社会工学位プログラム

小林 正英 [Kobayashi Masahide]

この講座を受けてみようと思ったきっかけは、双日本社に行く機会があるからでした。そんな単純な理由から受けた講座でしたが、思った以上の学びになり、満足度はとても高かったです。ビジネスを通して、歴史、文化、資源などの視点で、世界で起きていること、何が影響して今の世界になっているのかを知ることができました。その中で、自分の視野が身の回りのことから世界へと広がっていくのを実感。この講座では、双日のビジネスを学べるだけでなく、世界を学ぶことができます。私が、世界の中でどの位置にいて、今後どのような方向で進めばいいのか、教えてくれる講座でした。

社会的課題の本質を突く講義

情報学群 情報メディア創成学類

駒谷 昌輝 [Komaya Masaki]

1年間の履修を組む際、私が履修できる講義について一つ一つ確認していたところ、シラバスに記載されていた講義内容に興味を惹かれ、この講義を履修することを決めました。何も考えずに履修を組むと自らの専門の授業に偏ってしまいがちですが、この講義は様々な業界の方の講演を聞くことができ、結果として社会全体に対する幅広い知見を得ることができます。講義を受ける中で特に印象に残ったこととして、平等と公正の違い、性的マイノリティの権利と女性の権利など、今注目を浴びている課題の本質的な部分を突く話が多かったことがあります。ただニュースを見ているだけでは至らない深い思考をする契機として、非常に貴重な講義でした。

リーダーの素質が学べる！

情報学群 知識情報・図書館学類

實藤 翠夏 [Saneto Suika]

日々、社会の様々な課題と向き合っている方々のお話が聞けるこの授業は、今後社会の一員として生きていくうえで重要なことが学べる良い機会だと思い、受講を決めました。ディスカッションの中で、リーダーは仲間が早く協力できるように、強い信念と論理を持つことが重要だとおっしゃっていたのが印象に残りました。確固とした信念と論理を持つことは己を律するためだけでなく、周囲の仲間や組織の心を動かすためにも必要だと感じました。今後、研究や就職活動に臨む際には「挑戦したいこと」に対する情熱と十分な知識を持ち、語れるようにしたいと思います。

学外のトップマネジメントの
皆さんから実務の最前線のお話が聞ける

人文社会ビジネス科学学術院
国際経営プロフェッショナル専攻

永嶋 彰代嗣 [Nagashima Akiyoshi]

ご入学おめでとうございます。入学式で配布された受講案内をご覧になって、今、このページに辿り着かれたのだと思います。私がJAPIC講座を受講しようと思ったのは、まさにこの受講案内がきっかけでした。私は、働きながら学べる本学の社会人大学院が魅力的で入学を志しました。大学院共通の科目が豊富に用意されている中、JAPIC講座は学外のトップマネジメントの皆さんから実務の最前線のお話が聞けるとあって、早々に履修申請したことが思い出されます。講義は筑波の本校で開講されることから、東京から通う私にとっては負担も大きかったのですが、それに見合うお話が伺えました。加えて、若い大学院生の皆さんとディスカッションすることができたことは大変有意義でした。

学生の感想

今まで遠い世界のことと思っていたことは
意外に身近だ

トップリーダーの
思考のプロセスを
学べた

私たち世代に
向けた授業

講師と
議論できる！

問題解決に役立つ
Society 5.0

知らない間に狭まっていた
視野を広げてくれる講義

様々な面から見た「社会」を
「私達の現実」として
受け止められる

人間学群 心理学類

高橋 和真 [Takahashi Kazuma]

政治、特に安全保障に関心があったので受講しました。特に、他の分野の講義でも多く共通して、市民全体の活動の重要性が語られていたことが印象に残りました。政治であれば政策の詳細を知って有権者が協議・申し立てをすること、地域振興であれば民間企業や住民が積極的に参画することの大切さがわかりました。今の日本や世界には様々な問題がありますが、それらは革新的な理論やリーダーシップを持つ人材だけでは解決できないと思います。政治も経済も、専門的な議論として抽出すればなんだが別世界のように見えてしましますが、それはあくまで同じ一つの現実であり、あくまで社会は人の集まりであること、それゆえ一人一人の働きが大切であることを再確認させていただきました。

授業を通じて日本の全体像を
把握することが出来た

生命環境学群 生物資源学類

榮嶋 千紘 [Ejima Chihiro]

私は日頃から図書館で新聞を読んでおり、時事問題を通じて社会に対する疑問を何度か抱いたことがあります。この授業では新聞に記載されるような企業や組織に所属し第一線で活躍されている方々が先生として来られると聞いたので、先述の疑問を直接先生方にぶつけてみようと思い受講しました。その結果自分の知識が少なかったこと、まだ物事を見る角度は多く存在するということがわかりました。そして授業を通じて先生方は厳しい状況・条件の中で少しでも可能性を見出すことをされているのだとわかりました。今回受講して、報道されていなかった日本社会の事情や仕事を通じた社会貢献の考え方を学ぶことが出来ました。有難うございました。

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群
デザイン学学位プログラム

Vithor Hugo Costa da Silva

学部時代から、Society 5.0に関連するテクノロジーを追いかけて研究してきた。Industry 4.0という言い方もされています。私にとってこの授業で最も良かったことのひとつは、グループでのディスカッションです。このトピックの他の応用例をいくつか学ぶことができたし、ディスカッションでは、他の専門家、社会人や学生が、社会における最近の問題や将来の問題に対する可能な解決策をどのように想像しているのかを理解することができて興味深かったです。テクノロジーは常に進化していますが、問題解決に役立つ方法を理解しなければならぬと思います。



今後の学生生活や
将来を考えるきっかけになる

人文・文化学群 比較文化学類

横山 心咲 [Yokoyama Misaki]

各業界の最前線で活躍されている方々からお話を聞ける機会は、大学生活、さらには人生においてもそうあるものではないと思う受講を決めました。全く知らなかった経済・産業の分野でも、専門的な難しい内容を具体例を用いてできるだけ分かりやすく説明してくださり大変勉強になりました。また、それぞれの講師の方々が大学生のうちにしておくべきことや今後求められる力について話してくださったことで、自身の学生生活や将来をどのようなものにしたいかを真剣に考えるようになりました。今後も世界および日本の社会の動きに関心を持ち、さらに視野を広げていきたいです。

医学群 医療科学類

松岡 桃子 [Matsuoka Momoko]

政治、世界情勢などの基本的な知識に関してニュースをあまり真面目に見てこなかった私は知らないことが多く、このままではいけない、と思ったこと、将来を考えたときに国際的な保健衛生に興味を沸かしたことから、この理由から、私はこの講義を取りました。今回この講義でお聞きした中で一番印象に残っているのは「脱グローバル」の話でした。私はこの話で、グローバル化に注目しているだけでは足りないことに気づかされました。そして、この講義全体を通して、これから世界がどのように動いていくのか、その動きを予測してどのように動くべきなのか、を考えることが重要であると感じました。

議論することに
価値を置く講義

理工情報生命学術院 システム情報工学研究群
社会学学位プログラム

浅見 知秀 [Azami Tomohide]

講義の内容が、研究テーマに近いもの(次世代モビリティ)であったため受講しました。講義ではモビリティに留まらず、高原教授が行政官として携わる科学技術・イノベーション推進政策の最新情報(AI、量子コンピューターなど)を知ることができ有意義な時間でした。また議論や質問の時間が多めに設定されています。先生と受講生が車座になり、弁証法のアプローチを用いて、社会課題について議論する機会は少人数講座ならではの楽しい時間でした。高原教授のトヨタ自動車時代のエピソードや外部講師の方のマーケットデザイン、プラットフォームデザインの講義も印象深いものでした。

■ 総合科目(学士基盤科目)
社会基礎学Ⅰを受講した学生の感想

■ 総合科目(学士基盤科目)
社会基礎学Ⅱを受講した学生の感想

■ 大学院共通科目 アドバンスト・ディスカッション
コースを受講した学生の感想

Think Globally, Act Locally. Think Locally, Act Globally.



この講義について

この講義は、上の見出し：「地球規模で考え、地域で行動する。地域で考え、地球規模で行動する。(Think Globally, Act Locally. Think Locally, Act Globally.)」というフレーズがぴったりの講義です。このフレーズを見てもどこか現実感がない、そもそも地球規模の視点でものを考えると、地域で輝く活動すると言われてもピンとこなかったり、とっつきにくさを感じるかもしれません。でも、すこし前向きに、まずはその実践例を知り、それをもとに自分ならどうするか、どうしたいか、を考えてみませんか？

まず、学群生向けに総合科目(学士基盤科目)として開講される「社会基礎学Ⅰ」は、その実践例を横断的に知るにはまさにうってつけです。国や地方自治の立場から、あるいは、街づくりや国づくりの立場から、さらには、地方の活性化への取り組みなど様々な立場で、その最前線にいるトップランナーの方々から、それぞれの実践的な取り組みやその実践に至るプロセスをご紹介します。さらに、受講生と講師の方々との質疑応答による議論に重きをおくのも本講義の特長です。その議論によって受講生のみなさんそれぞれの考えが沸々湧くようになればよいですね。この講義に通底するキーワードは Glocal です。Global と Local をつないだ造語ですが、上の見出しを一言でいうような単語ですね。講師の方々から紹介いただく内容は、みな、この Glocal な考え方に紐づけることができます。そして、紹介いただく内容そのものが、地球も人も生物もが織りなす社会の基礎となるものでしょう。そこで、講義名を「社会基礎学」としてみました。

これから社会に出て、自分自身の立場を築いていくためには、自分自身の論を言葉で表現しなくてはなりません。その言葉を磨くためには、人と議論を重ねることがとても大事です。そのような濃密な議論ができるように、大学院生向けに大学院共通科目として、アドバンスト・ディスカッションコースと銘打ち、少人数のゼミ形式の講義を用意しました。通底する意識は学群生向けの講義と同様ですが、テクノロジーの活用と Glocal な思想と行動様式、多極化した世界とこれからの日本に焦点をあて、議論を深めていきます。

筑波大学 × JAPIC

この冊子に掲載されている講義は、すべて、筑波大学と日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)との連携協定に基づいて開設しています。この目的は、本学とJAPICとが相互に連携・協力して、世界で活躍できるグローバル人材の育成を推進し、この国の学術教育研究の振興・発展と人材育成に寄与することです。この協定は、2010年10月に締結され、年度ごとに更新されながら現在に至っています。今現在、産業界・官界で活躍し、世界に挑戦するトップリーダーの方々の派遣も、この協定によるJAPICの指名および本学との協議に基づくものです。トップリーダーからのリアルな実体験を交えての話をお聴きし、「グローバル化とは何か」、「日本国内におけるグローバル化とは」、「地域社会の発展に何が必要か」など、様々な話題について掘り下げていきましょう。これらの講義で扱われている題材はあまり自分に関わりなさそう...と思った学生の皆さん! 講義の終盤には、自分の専門分野と地球規模な諸問題・社会との関わりに気付いてくることでしょう。



JAPIC について



JAPIC 会長
進藤 孝生

[Shindo Kosei]

日本製鉄(株) 代表取締役会長

一般社団法人日本プロジェクト産業協議会(Japan Project-Industry Council: JAPIC)は、1979年に産業界の複合組織として設立されました。以来、民間諸産業による業際的協力と産官学民の交流を通じて叡智を結集し、国民の安全安心と持続可能で豊かな社会づくりに向けて、産業・経済・環境・資源・エネルギー、教育、国土・防災・都市・地域計画等、立国の根幹に関わる事項の研究並びに実現活動を行うことにより、国家的諸課題の解決に寄与し、日本の明るい未来を創生することを目的として活動して参りました。現在43業種220社の企業、地方自治体、団体、NPO等から構成され、年間延べ1万人の実務家が公益的な立場から、1. プロジェクトの企画・実現、2. 政府関係機関への政策提言、3. 産官学民交流のためのプラットフォーム形成等活動を行っています。

● 左上の見出しについて

この見出しは、平成15年版 環境白書の第2章 冒頭部分から引用しました^[1]。実は、このフレーズは、この白書が初出なのではなく、以前から様々な識者が使っているようです。この白書では、地球環境の保全と地域の環境との関係を個別にせず、一連の問題として取り組むことの訴えとしてこのフレーズを示していました。地球規模の課題はとて大きく感じられ、身近にとらえることは難しくても、自分が住む地域のことであれば身近にとらえることもできそうです。大きな地球の問題は地域の問題として活動してみよう、そして、地域の問題を考えることは地球規模の課題として活動してみよう、ととらえてはいかがでしょう? さらに地球規模の問題を、単に環境問題だけに絞るのではなく、政治・経済・社会・国際関係など、様々分野に広く複雑に絡み合うことにも考えをつなげてみましょう。

[1] <https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/h15/index.html>

春BC 1226151

社会基礎学Ⅰ — 「グローバル化」と「地方の活性化」に

世話教員 ● 岡本 直久 (システム情報系・教授) 他

※社会基礎学Ⅱは2024年度開講せず

第1回

6/1 (土) 13:30~16:30

導入講義Ⅰ

筑波大学におけるグローバル人材育成方針

筑波大学教員 システム情報系教授
大学執行役員(教育デザイン担当)

坪内 孝司 [Tsubouchi Takashi]

導入講義Ⅱ

連続リレー講義の意味・意義と狙い

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)
常務理事

林田 康洋 [Hayashida Yasuhiro]

写真は昨年度までの授業風景です

講義
概要

グローバル化とは何か?日本経済の諸課題を浮き彫りにした上で、安全保障、資源、エネルギーなど様々な観点から議論を進め、日本の進むべき未来を論じる。グローバル人材とは何か?産官学の第一人者たちが次世代のリーダーに必須となる素養について論じ、この講義で学んで欲しいことを明確化する。

パネルディスカッション

第1部

グローバル化とは何か?グローバル化の中で日本は?

パネルディスカッション

第2部

学生は何を学び、何を身に付けるべきか?

パネリスト

石破茂衆議院議員 政策担当秘書

吉村 麻央 [Yoshimura Mao]

パネリスト

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)
常務理事

林田 康洋 [Hayashida Yasuhiro]

パネリスト

国土交通省 総合政策局長

長橋 和久 [Nagahashi Kazuhisa]

コーディネーター

筑波大学教員 システム情報系教授
大学執行役員(教育デザイン担当)

坪内 孝司 [Tsubouchi Takashi]

第2回

6/8 (土) 13:30~16:30

組織におけるダイバーシティと人財活用

(株)日本政策投資銀行 常務執行役員

原田 文代 [Harada Fumiyo]

講義
概要

社会・経済のグローバル化やサステナビリティへの対応の必要性を背景に、ダイバーシティの重要性はますます高まっている。当講義では組織におけるダイバーシティマネジメント、即ち構成員の多様な特性と個性の組織内への取込み、活用につき、歴史的發展過程及び現状、課題について解説する。また国内外の先進的事例を交えながらダイバーシティマネジメントの効用を明らかにし、将来像を展望する。

スポーツチームのマネジメント ～日本男子バレーを例に～

福井工業大学 教授

中垣内 祐一 [Nakagaichi Yuichi]

講義
概要

東京五輪に向けて、世界ランキング14位であった日本男子バレーを、どう再興していったかについて実体験を通じた経験をマネジメント面から語る。選手として、指導者としての経験から、日本バレー界が抱えていた問題点や、これからのバレー界の希望について展望する。

貢献できる輝く人材の育成

第3回

6/15 (土) 13:30~16:30

企業経営の現状・課題と戦略

日本製鉄(株) 執行役員 人事労政部長

三好 忠満 [Miyoshi Tadamitsu]

講義
概要

本講義では、日本製鉄の過去・未来の取り組みを通じて、日本のものづくり産業が目指す成長戦略について考察する。／①「鉄」という素材の多様な特性・魅力／②プラザ合意による超円高、中国の台頭、川上・川下業界の再編等の危機をどのように乗り越えてきたか／③人口減少による内需縮小、気候変動への対応ニーズの急激な高まり等の環境変化にどう向き合っていくか

未来の国土づくりを担う皆さんへ

内閣総理大臣補佐官(国土強靱化及び復興等の社会資本整備並びに科学技術イノベーション政策その他特命事項担当)

森 昌文 [Mori Masafumi]

講義
概要

我が国の持続的な経済成長や安全・安心で豊かな国民生活の実現は、今までも、そしてこれからも国土交通行政に携わる者のミッションである。国土づくりに携わる立場から、我が国が現在おかれている状況と対応、未来の国土づくりの可能性とそれを担う将来のシビルエンジニアへの期待を語る。

第4回

6/22 (土) 13:30~16:30

日本の安全保障環境と防衛政策

防衛省 政策立案総括審議官

青木 健至 [Aoki Takeshi]

講義
概要

わが国を取り巻く安全保障環境は急激に不確実性を増し、防衛省・自衛隊が担う役割や活動の場面も宇宙・サイバー・電磁波まで広がりました。北朝鮮による度重なる弾道ミサイル発射、中国による一方的な現状変更の試みの執拗な継続、新型コロナウイルス感染症に対する活動、大規模な自然災害に対する災害派遣活動、米国をはじめとする諸外国との間における防衛協力・交流など、時事問題を扱いながらわかり易く解説したい。

グローバル化と戦争

(一社)共同通信社 常務理事

沢井 俊光 [Sawai Toshimitsu]

講義
概要

20世紀に2度の世界大戦を経験し、莫大な数の人が犠牲になったにもかかわらず、21世紀になった今も、世界各地で戦争は続いている。冷戦終結後、一気に進んだグローバル化によって各国の経済的結びつきが強まった結果、戦争の性質は変わったのか。「反グローバル主義」を掲げたトランプ前大統領の下で進んだ「米中新冷戦」が本格戦争に発展する恐れはあるのか。戦争取材の経験を交えながら、グローバル化と戦争の関係を考える。

第5回

7/6 (土) 13:30~16:30

地域資本を活用した地域経営

パシフィックコンサルタンツ株式会社 経営企画部
チーフプロジェクトマネージャー

石崎 晶子 [Ishizaki Akiko]

講義
概要

人口減少・少子高齢化が進む地方では、様々な地域活性化の取り組みがなされている。その取り組み効果を最大化する着眼点として、地域資本の活用と、地域経済循環が肝要である。地域には多様な人的資本、自然資本、社会資本がある。それらをどのように組み合わせるか、外部の力を使ってどう効果を最大化させるか、地域事例を考察しながら、グローバルの中で生き残れる地域の未来のあり方について、皆さんと議論したい。

日本産業のありたき姿について

(株)みずほ銀行 執行理事 産業調査部長

定岡 祐二 [Sadaoka Yuji]

講義
概要

日本は今、不安定な世界(米中拮抗、覇権国不在)、人口減少・高齢化、サステナビリティ実現、テクノロジー変化といった大きな潮流の変化の中に身を置いている。本講義では、日本産業を取り巻く環境の変化と、それを踏まえた日本産業のありたき姿について考察する。

期末試験

7/13 (土) 13:30~16:10

春BC 0A00402

次世代モビリティと未来社会像

世話教員 ● 大学院共通科目部会長 他

デジタル化する社会と注目される世界観、エマージングテクノロジーの最新動向を共有して、次世代モビリティと未来社会像を議論。自動車エンジニアの経験と政府官僚の経験から最新動向を解説。

担当教員

CYBERDYNE株式会社 顧問
筑波大学特命教授、慶應義塾大学特任教授、東北大学参与、大阪公立大学法人特別顧問

高原 勇 [Takahara Isamu]

キーワード

次世代モビリティ、スマートシティ、地域社会、Society5.0、カーボンニュートラル、エネルギー、食糧・農業、水資源

第1回

6/5 (水) 13:00~17:30

筑波大学 筑波キャンパス

講義概要

- 講義「取り巻く環境変化と次世代モビリティの最新動向」と全員参加による議論

次世代モビリティと取り巻く技術革新や注目される世界観を共有したうえでディスカッションを行う。さらにグループワークによる次世代モビリティと未来社会像を描く演習を実施。

第2回

6/26 (水) 13:00~17:30

筑波大学 筑波キャンパス

講義概要

- 講義「世界が直面する社会課題とエマージングテクノロジー」と全員参加による議論

スマートシティに係る政策動向について情報共有したうえで、グループワークによるエマージングテクノロジーの活用と新たな都市と地域像を描く演習を実施。

第3回

7/10 (水) 13:00~17:30

筑波大学 筑波キャンパス

講義概要

- 講義「日本が目指す社会像と次世代モビリティの社会応用」と全員参加による議論

第1回、第2回の講義を通して検討した内容を前提に、次世代モビリティ、スマートシティによる市場デザインと未来社会像についてグループワークによる総括議論を実施。



写真は昨年度までの授業風景です

秋AB 0A00401

多極化する世界とこれからの日本

世話教員 ● 大学院共通科目部会長 他

混迷の度を深める世界の中で日本は？難局に立ち向かう皆さんの決心は？

担当教員

筑波大学客員教授
双日(株) シニア・エグゼクティブ・アドバイザー
平井 龍太郎 [Hirai Ryutaro]

筑波大学客員教授
双日(株) 常務執行役員 航空・社会インフラ本部長
橋本 政和 [Hashimoto Masakazu]

筑波大学客員教授
双日(株) 常務執行役員 人事担当本部長
河西 敏章 [Kasai Toshiaki]

キーワード

過去を知り、現在を正しく理解して、未来を予測する力を養う契機とする。
世界の潮流に対する知見を深め、自分の考えを発信することにチャレンジしよう。

第1回

10/9 [水] 13:00~17:30 筑波大学 筑波キャンパス

- アイスブレイク：自己紹介・事前課題に基づく発表と会話
- 講義「100年の世界史と今の世界政治・経済について」と全員参加による議論

第2回

11/13 [水] 13:00~17:30 筑波大学 筑波キャンパス

- 講義「戦後経済・商社ビジネスモデルの変遷」と全員参加による議論

第3回

12/4 [水] 13:00~17:30 双日(株) 本社

パネルディスカッション テーマ① 事例に基づく商社リスクマネジメントの今と将来

パネリスト

筑波大学客員教授
双日(株) 常務執行役員 人事担当本部長
河西 敏章 [Kasai Toshiaki]

コーディネーター

筑波大学客員教授
双日(株) シニア・エグゼクティブ・アドバイザー
平井 龍太郎 [Hirai Ryutaro]

パネルディスカッション テーマ② インフラビジネスにおけるビジネス構築の機能と課題

パネリスト

筑波大学客員教授
双日(株) 常務執行役員 航空・社会インフラ本部長
橋本 政和 [Hashimoto Masakazu]

コーディネーター

筑波大学客員教授
双日(株) シニア・エグゼクティブ・アドバイザー
平井 龍太郎 [Hirai Ryutaro]

事前に提起された課題と発表・全員参加による議論

- ラップアップ・セッション（ゼミ全体の振り返り）

(第3回授業終了後に双日社内カフェテリアにて双日社員も参加したカジュアルなレセプションを開催予定。)

登壇される講師のプロフィール一覧

筑波大学教員 システム情報系教授
大学執行役員(教育デザイン担当)

坪内 孝司 [Tsubouchi Takashi]

1994年より筑波大学で教えている。本学出身。専門
はロボット工学。特に自律移動ロボットやその関連技
術の産業転用応用が主テーマ。2018年より教育企画室
長、2020年より23年まで教学デザイン室長。神奈川
県出身。主な著書に「はじめてのロボット創造設計」を
はじめとする3部作があり、2009年に文部科学大臣表
彰科学技術賞(理解増進部門)を受賞。趣味:古典西
洋音楽の合唱やフルート、リコーダーの演奏、庭いじり、
ほかいろいろ。

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)
常務理事

林田 康洋 [Hayashida Yasuhiro]

京都市出身。1993年新日本製鉄(現日本製鉄)入社。
営業(厚板)、支店総務等を担当。勤務地は、堺製鉄所(大
阪)を皮切りに、東京、名古屋、大阪を経験。最後の
5年間はプロジェクト開発部にて海外インフラ案件を担
当。東南アジア、南アジア、中東等にも出張。2022年
からJAPIC勤務。趣味は、山登り、京都探訪(京都検
定2級取得)、読書、少しだけ乗り鉄。

石破茂衆議院議員 政策担当秘書

吉村 麻央 [Yoshimura Mao]

早稲田大学在学中、米コロンビア大学に短期留学、
多業種のアルバイトを経験し、政策担当秘書資格試験
に合格。卒業後、石破茂事務所に勤務、在職ついに
26年。国務大臣防衛庁長官秘書官拝命中、公務海外
出張を多数経験。陸上自衛隊予備自衛官として15年間
登録(現在退職)。2022年からライブ活動を再開(ボー
カル担当)。推理小説、釣り、海外ドラマ、マンガなど
が好き。

国土交通省 総合政策局長

長橋 和久 [Nagahashi Kazuhisa]

愛媛県出身。平成元年京都大学農学部卒業。同年建
設省(現 国土交通省)入省。道路局において特定財源
問題、住宅局において住宅税制や都市再生機構の法人
改革等に携わる。大皇国土交通大臣秘書官、不動産業
課長、官房人事課長、官房総務課長、道路局次長、官
房総括審議官、不動産・建設経済局長を経て現職。趣
味は休日の寄席通い。

(株)日本政策投資銀行 常務執行役員

原田 文代 [Harada Fumiyo]

地域開発プロジェクトや発展途上国等への技術支援、
海外企業の対日投資、日本企業の対外インフラ投資等
を担当後、世界銀行グループ国際金融公社にて東アジ
アのインフラ整備に従事。DBJシンガポール副社長、
国際統括部長兼女性起業サポートセンター長、ストラ
クチャードファイナンス部長等を経て2021年より現職。
サステナビリティ経営戦略策定と推進担当。趣味:
ウォーキング。

福井工業大学 教授

中垣内 祐一 [Nakagaichi Yuichi]

1990年新日本製鉄(現 日本製鉄)入社。日本代表と
して12年間プレーした後、2004年に現役を引退。所
属チーム堺ブレイザーズの監督として5年間指導した
後、2年間のアメリカ研修に。2017年より日本代表監
督に就任。2022年 日本製鉄を退社。現在は、水稻専
門の法人農家を経営しながら、福井工業大学スポーツ
健康科学部 教授。趣味は上達しないゴルフ。

Profile

日本製鉄(株) 執行役員 人事労政部長

三好 忠満 [Miyoshi Tadamitsu]

1992年新日本製鉄(株)(現 日本製鉄(株))入社。本社および製鉄所において原料購買、人事・総務等を担当後、2020年4月よりブリキ営業部長、2021年4月より執行役員ブリキ・電磁鋼板営業部長、2023年4月より執行役員人事労政部長。出身地：愛媛県、趣味：子どもの野球チームの応援、ゴルフ、読書、美味しいもの探し。学生時代はバレー・バンド・アメフト。

内閣総理大臣補佐官(国土強靱化及び復興等の社会資本整備並びに科学技術イノベーション政策その他特命事項担当)

森 昌文 [Mori Masafumi]

1981年建設省入省。米国連邦運輸省道路庁、土木研究所ITS研究室長、近畿地方整備局長を経て、道路局長、技監、事務次官を歴任。入省後に「交通需要」に関する論文で博士号を取るなど交通全般にも明るい。2022年より内閣総理大臣補佐官として国土強靱化、社会資本整備などを担う。また、東京大学、立命館大学等の客員教授も務める。リラックスする時に使う「お香」にも詳しい。

防衛省 政策立案総括審議官

青木 健至 [Aoki Takeshi]

東京都出身。1989年防衛省入省。運輸省、在カナダ大使館、外務省、内閣府に出向。防衛省では、戦略情報分析室長、国際政策課長、情報通信課長、人材育成課長、人事計画課長、防衛政策・運用担当審議官、地方協力局長等を経て、報道官として防衛白書を取りまとめた。現在は、政策立案総括審議官として、防衛省自衛隊の人的基盤の強化、働き方改革、統合運用体制の整備等に従事。

(一社)共同通信社 常務理事

沢井 俊光 [Sawai Toshimitsu]

1985年共同通信社入社。神戸支局、横浜支局で主に事件を取材。95年から海外特派員。ナイロビ支局でアフリカの紛争、飢餓、難民問題などを、バンコク支局でアジア地域統合、ミャンマー民主化などを、イスラマバード支局で対テロ戦争などを、ワシントン支局で米大統領選、イラク戦争などをそれぞれ取材。外信部長などを経て2021年から現職。東京都出身。趣味はテニス、読書。

パシフィックコンサルタンツ株式会社
経営企画部 チーフプロジェクトマネージャー

石崎 晶子 [Ishizaki Akiko]

2003年パシフィックコンサルタンツ株式会社入社、環境・エネルギー分野の部署にて環境計画・地球温暖化対策・生物多様性分野のコンサルティング業務に従事。その後、新事業企画、市場創出の部署にて地域創生やプロジェクト化支援等に関わる。2018年より本社に異動、現所属。出身は岡山県。趣味は仕事と子育て(3人の息子を追い回す)。座右の銘は「死ぬこと以外はカスリキズ!」

(株)みずほ銀行 執行理事 産業調査部長

定岡 祐二 [Sadaoka Yuji]

1996年日本興業銀行(現 みずほ銀行)入社。米州業務部や戦略企画部等を経て、2019年4月産業調査部総括チーム次長、2020年4月同部副部長、2023年4月より現職。産業調査部では、国内外で140名の部員を率い、約40の産業に関する調査・提言活動を統括。

登壇される講師のプロフィール一覧

Profile

CYBERDYNE株式会社 顧問
筑波大学特命教授、慶應義塾大学特任教授、
東北大学参与、大阪公立大学法人特別顧問

高原 勇 [Takahara Isamu]

トヨタ自動車株式会社入社、クラウン・レクサスGSなど新車開発を担当。グローバル開発、設計革新の全社リーダー、BR-VI室長、VA開発部長、技術統括部主査を経て、内閣府委員、産業競争力懇談会実行委員、筑波大学未来社研究開発センター長を兼職。2019年6月内閣府大臣官房審議官（科学技術・イノベーション担当）。2023年9月より現職。日本工学アカデミー正会員、博士（社会工学）。

筑波大学客員教授
双日(株) シニア・エグゼクティブ・アドバイザー

平井 龍太郎 [Hirai Ryutaro]

1982年日商岩井(株)、現双日(株)入社。双日(株)米国法人・経営企画部長、人事総務担当役員、アジア・大洋州総支配人、営業管掌役員、代表取締役副社長などを経て2024年6月より現職。福岡県出身。海外在住は中国（北京）、米国（ニューヨーク）、シンガポールで通算12年。お酒とゴルフを嗜まない、商社パーソン・スタンダード逸脱モデルの人材だったが、コロナを機にゴルフに挑戦中。退任後は若者の教育と体力の回復に時間を使いたい。

筑波大学客員教授
双日(株) 常務執行役員 航空・社会インフラ本部長

橋本 政和 [Hashimoto Masakazu]

1990年日商岩井(株)入社。愛知県出身。入社後は物流部隊に配属され、初出張は2年目の西アフリカ。1000km超の行程を野宿しつつ輸送監督として走破。その後はロシア衛星通信網の構築、米国駐在中にはトヨタ生産方式の普及活動、2011年インフラ事業へ転身、鉄道や再生エネルギー事業、ヘルスケア事業の立ち上げに取り組んだ。環境・産業インフラ本部長、エネルギー・社会インフラ本部長、インフラ・ヘルスケア本部長、人事担当本部長を経て、2024年4月より現職。私生活では十数年ぶりに下手なゴルフを再開、人より多く歩き、走り回ることによって運動不足を解消中。

筑波大学客員教授
双日(株) 常務執行役員 人事担当本部長

河西 敏章 [Kasai Toshiaki]

1968年生まれ、東京都出身。1990年日商岩井(株)入社。企業審査を担当後、ブラジルに駐在しリスク管理、法務を担う。双日発足後は、リスク管理部長、米国駐在（経営企画）、人事・総務部長を経て、2020年より執行役員 人事、総務・IT業務担当本部長として、人事及びIT領域の改革を推進。広報、リスク管理担当本部長を経て2024年4月より現職。また、2004年より約3年間鉄道業界に身を置き、他業界も経験している。ブラジル生まれの大学生の息子と娘。趣味は妻と週末ウォーキング。



Q & A



Q1 「社会基礎学」とは何ですか？

A1

この講義では、国や地方自治の立場から、あるいは、街づくりや国づくりの立場から、さらには、地方の活性化への取組など様々な立場で、その最前線にいるトップランナーの方々から、それぞれの実践的な取組やその実践に至るプロセスをご紹介します。講師の方々から紹介いただく内容そのものが、地球も人も生物もが織りなす社会の基礎となるものでしょう。そこで、講義名を「社会基礎学」としてみました。

Q2 受講することにより どんなことが期待されますか？

A2

この講義で学んだことを基礎に、今度は受講した皆さんご自身が、社会にどのように貢献し、どのように力を磨き、そのために学生の期間をどう使えばよいのか、を考える一助にしてほしい、と期待しています。学生の皆さんにはこの講義で最新の社会、国際、ビジネス等分野の課題を捉えることで、人間力、汎用力、広い視野を持ったグローバル人材としての能力を身につけてほしいと思います。

Q3 学士基盤科目って1科目だけ 受けておけばいいんですよね？

A3

確かに、総合科目のなかで学士基盤科目と設定される科目から1単位以上取得することが全学共通の卒業要件になっていますが、これは必要最小限の数にとらえていただきたいのです。この要件に関係なく、知見を広げるために興味をもてる科目の受講を歓迎します。本学の特長である総合智教育のなかで、汎用智をになう科目群としてこの学士基盤科目も設定しています。自分の専門領域にとどまらず、その領域の外からの視点でのものの見方にも触れることで、知識の裾野を広げ、「複眼的」「俯瞰的」な視座をもってほしいと願っています。このような視座は「創造的問題解決」をしてゆく力の源泉となると考えられるからです。

Q4 秋の講義は春の講義を受けた 人でないと受けられませんか？

A4

それぞれ独立した科目なので、どちらかだけでも受講することができます。また、春学期の講義内容が、秋学期講義の前提知識として求められることはありません。



Q5 大学院生ですが、総合科目 (学士基盤科目)社会基礎学Ⅰの 講義を受けてもいいですか？

A5

大学院生も特別履修願を提出することにより履修が可能です。TWINSの「特別履修申請」にて申請書を作成し、指導教員及び学位プログラムリーダー又は専攻長の承認印をもらい、対応支援室大学院教務担当へ提出してください。修得した単位が修了の要件となるかは教育組織により異なりますので、対応支援室大学院教務担当にご確認ください。

Q6 授業の雰囲気は どのような感じですか？

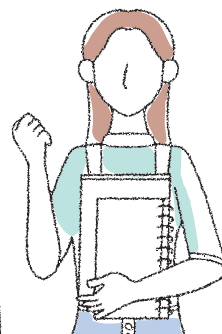
A6

講義の回は、各講師の話聞いた後、質疑応答の時間があります。また、パネルディスカッションを行う回では、会場からの質問や意見をもとにパネリストがそれぞれの立場から発言し、議論が展開されます。皆さんの声が講義に反映されますので、積極的な発言を期待します。更に、授業後は講師に個別に質問することもでき、質問待ちの行列ができることもあります。

Q7 「大学院アドバンスト ディスカッションコース」は どのようなものですか？

A7

大学院共通科目として2科目開講されていますが、いずれも10～15名程度の少人数のディスカッションコースです。産業界のトップリーダーと直接対話できることもこの講義の特長ですが、様々な分野の学生が集まって濃密な議論が行われることも大きなポイントです。講義の事前・事後課題や提示される課題図書、統計資料を読み込み、論点を整理し、授業に臨むことで大いに学びが得られます。



● 総合科目(学士基盤科目) 社会基礎学Ⅰに関わるQ&A
● 大学院共通科目 アドバンスト・ディスカッションコースに関わるQ&A

教 員 の 声

視野を広げて、可能性を高めよう

この講義の特徴は、要約すると「各分野のトップランナーである講師陣に会えること、教えてもらえること」だと思います。社会人になって、みなさんが、それぞれ活躍するようになれば、本当の意味でのこの講義の意図や価値が理解できると思います。でも、今は、その理解は不要です。むしろ、この講義をきっかけに自身の幅を広げてもらえることを期待しています。別の言葉で表すなら、みなさんには、引き出しを増やして欲しいと思います。大学に入学し、希望していた専門分野の講義も楽しみだろと思う。ただ、それらを踏まえた上で、今、まさに日本で、アジアで、世界が直面する課題について、理解し、どのように取り組まなければならないかを考察することへ、よりステップアップしてもらいたいと思います。課題について、潜んでいる構造を理解することはなかなか難しいものです。この講義で、まさに現在、各分野、各領域を牽引している方々のお話を聞いてください。その中で、必ずや自身が将来、世の中に対してどのように貢献出来るかの答えを見つけることが出来るはず。みなさんには、グローバルにリーダーシップを発揮できる能力が潜んでいると信じています。



システム情報系教授

岡本 直久

[Okamoto Naohisa]



人文社会系教授

土井 隆義

[Doi Takayoshi]

良い授業の条件とは？

良い授業とは何でしょうか。それは新しい知識を与えてくれるだけでなく、その知識を駆使して自分も問いを発してみたいという意欲を育んでくれる授業ではないでしょうか。そして、何を問いとすべきかについて適切な道しるべとなってくれる授業ではないでしょうか。

たんに知識を得るだけであれば、その宝庫である図書館へ出かけて書物の頁をひたすらめくってもよいでしょう。昨今であれば、ネット上に存在する膨大な情報にも容易くアクセスできるでしょう。難しい文章をわざわざ読まなくても、平易に解説してくれる動画も数多く公開されています。

しかし人生を豊かにするためには、さらに人類の幸福を増大させるためには、知識を溜め込むだけでは不十分です。それらの知識をどのように活用すべきか、来るべき未来のためにいま何をすべきか、絶えず問いを立て続けていかなければなりません。

この授業を担当くださる講師陣は、みな問いを主体的に構築してこられた方ばかりです。講義の中ではその具体的な生き様についても語ってくださいます。その生の声に触れることで、ぜひ大きな刺激を受けてください。そして、何を自らの問いとすべきなのかを考えてください。

知的でエキサイティングな土曜の午後

みなさん、土曜日の午後をこの「社会基礎学」の受講で、知的にかつエキサイティングに過ごしてみませんか？この科目の受講で広がる知識は、これから社会人になったのちに、あるいは就活の際にもきっと役立つでしょう。科目名だけみると、これは社会系の講義だろう、自分の専門分野とは直接関係ないし・・・と思うかもしれませんが、でも、講義に出席してみたら、その印象は徐々に変わり、自分の専門分野が社会を通してのどのようにかかわるかが、おぼろげながらもわかってくるのではないかと思います。そして、知識のすそ野が格段に広がったことに気づきます。

これから各自が専門とすることになる学問分野は、およそ地球上にある物質や環境、人や生物の営みと関連します。人の営みは社会を形成しますから、まさにここに光を当てて、産業界・官界で活躍されている世界に挑戦するトップリーダーからの現代のホットでリアルな話を、実体験を交えながら聴くことができるまさにおススメの講義なのです。普段、新聞やテレビのニュースで見聞きする問題に日々接しておられる方々からの直接にお話を聞くことができます。講師の先生方とのディスカッションの時間も豊富に用意します。積極的に自分の意見を表明して議論に参加してみませんか？教室でお会いしましょう！

大学執行役員(教育デザイン担当)
システム情報系教授

坪内 孝司

[Tsubouchi Takashi]

未来社会のデザイナーとなる皆さんへ

「2040年問題」をご存じでしょうか。高齢者人口割合の最大化と生産年齢人口の減少が同時に進行し、国内経済や社会の維持が困難になる状況を指しています。現在、日本の人口は1億2千万を超えていますが、近年では急速な少子高齢化に伴う人口減少が続いています。世代構成の歪みに起因する課題は、労働力の確保や社会福祉制度の維持などにおいて、すでに顕在化していますが、とりわけ地方では社会を支える人材不足が深刻な状況です。2040年の私も(生きていれば)後期高齢者。きっと皆さんに支えられていることでしょう。

少々暗い話をしましたが、実はピンチはチャンス。人口減少社会とは、ひとり一人が大切な人材となる時代。皆さんの活躍のステージは無限に広がっているといっても過言ではありません。筑波大学で学ぶ皆さんは、未来社会のデザイナーとして新たな価値を開拓することが期待されています。この授業はその羅針盤となるもの。皆さんが学ぶ学問が未来社会とどのように関わってくるのか。社会の第一線で活躍している講師の方々と「共振」することによって見えてくるはずです。私も皆さんと一緒に学んでいきます。迷惑な高齢者にならないように…



教学デザイン室長
生命環境系教授

松井 圭介

[Matsui Keisuke]



2023年度大学院共通科目部会長
筑波大学名誉教授

谷口 孝介

[Taniguchi Kosuke]

千載一遇のチャンス

「实事求是」(事実に基づいて真実を追求する)とはすべての学問の要諦です。中国古代の正史『漢書』に出る語で、皇族のひとり献王劉徳を評したものです。学問のため献王は多くの善書を蔵していたと言います。ところが同じく皇族で『淮南子』の編者として著名な淮南王劉安も蔵書家でしたが、その蒐めたものは「浮弁」のものが多かったと言うのです。「浮弁」について唐代の顔師古のコメントでは「実用なし」と説明し、浮ついた誠意のない弁説は結局のところ現実に対処する力を持たないと言っています。ではそれとは逆に献王はどのような書物を持っていたかという、『周官』『尚書』『礼経』『孟子』『老子』などの類で、いずれも「経伝説記」つまり正統的な学問教説を時代に応じて展開した書物であったとのこと。顔師古のこぼれを借りればこれこそ「実用」的だということになります。現在ややもすれば皮相的に捉えられがちな実用的/プラティカルの本源的な意味が古代中国において認識されていたことが分かります。大学院共通科目、とくにアドバンス・ディスカッションコースは、ものごとの本源を見極めて世界をリードしてきた現代の献王に、世界の現実にとどのように対処したのかを具体的に開示してもらえ千載一遇の機会と言えるでしょう。

「グローバル化」と「地方の活性化」に貢献できる人材とは？

日本プロジェクト産業協議会 常務理事
筑波大学客員教授

林田 康洋

[Hayashida Yasuhiro]

「グローバル化」というのは、既に皆さんにとっては当たり前の言葉でしょう。多くの旅行者・ビジネスマンが世界の国々を行きかい、世界中の情報はインターネットやSNSを通じて瞬時に入ってきます。他方で、コロナが世界中に急速に蔓延するという負の側面も我々は体験しました。ロシアのウクライナ侵攻やパレスチナ問題も、我々の生活や将来に無縁ではありません。好き嫌いに関係なく、世界との関係なしには日本や我々の生活は立ちゆかない、これがグローバル化した世界です。

一方、「地方の活性化」を考える際の「地方」とはどういう場所でしょうか？ 日本には、それぞれ独自の歴史・文化・特色を持った数多くの地方が存在しています。それをいかに輝か

せることができるか、その際にも「グローバル」という大きな活力を取り込む必要があります。「グローバル化」と「地方の活性化」は相反する言葉ではありません。いずれにおいても、そこで活躍するためには、まずは自分自身を見つめること、磨いていくことが鍵となります。

この講義では、グローバルや地方において、それぞれ第一線で活躍する多彩な講師が登壇します。講師皆さんが抱えている、それぞれの夢や希望や現実的な課題を話してくれるはずです。これからの人生、あなたはどのような活躍の場所を見つけますか？ この講義が、皆さんにとって自分自身の進む道を考える一助になればと思います。教室でお会いできるのを楽しみにしております。

受講案内

2024

筑波大学



JAPIC

日本プロジェクト産業協議会

総合科目(学士基盤科目)

世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる 連続リレー講義

総合科目 (学士基盤科目) 春BC 社会基礎学Ⅰ 「グローバル化」と 「地方の活性化」に 貢献できる輝く人材の育成 世話教員 岡本 直久 土井 隆義 坪内 孝司 松井 圭介	第1回 6/1 (土) 13:30-16:30	【導入講義Ⅰ】筑波大学におけるグローバル人材育成方針 【導入講義Ⅱ】連続リレー講義の意味・意義と狙い 【パネルディスカッション】【第1部】グローバル化とは何か?グローバル化の中で日本は? 【パネルディスカッション】【第2部】学生は何を学び、何を身に付けるべきか?	坪内 孝司 林田 康洋 吉村 麻央・長橋 和久 林田 康洋・坪内 孝司
	第2回 6/8 (土) 13:30-16:30	組織におけるダイバーシティと人財活用 スポーツチームのマネジメント ～日本男子バレーを例に～	原田 文代 中垣内 祐一
	第3回 6/15 (土) 13:30-16:30	企業経営の現状・課題と戦略 未来の国土づくりを担う皆さんへ	三好 忠満 森 昌文
	第4回 6/22 (土) 13:30-16:30	日本の安全保障環境と防衛政策 グローバル化と戦争	青木 健至 沢井 俊光
	第5回 7/6 (土) 13:30-16:30	地域資本を活用した地域経営 日本産業のありたき姿について	石崎 晶子 定岡 祐二
	7/13 (土) 13:30-16:10	期末試験	

大学院共通科目

世界に挑む産業界トップリーダーによる大学院アドバンスト・ディスカッションコース

春BC 次世代モビリティと 未来社会像 世話教員 大学院共通科目部会長	第1回 6/5 (水) 13:00-17:30	講義「取り巻く環境変化と次世代モビリティの最新動向」と全員参加による議論	高原 勇
	第2回 6/26 (水) 13:00-17:30	講義「世界が直面する社会課題とエマージングテクノロジー」と全員参加による議論	高原 勇 他
	第3回 7/10 (水) 13:00-17:30	講義「日本が目指す社会像と次世代モビリティの社会応用」と全員参加による議論	高原 勇 他
秋AB 多極化する世界と これからの日本 世話教員 大学院共通科目部会長	第1回 10/9 (水) 13:00-17:30	【アイスブレイク】自己紹介・事前課題に基づく発表と会話 講義「100年の世界史と今の世界政治・経済について」と全員参加による議論	平井 龍太郎
	第2回 11/13 (水) 13:00-17:30	講義「戦後経済・商社ビジネスモデルの変遷」と全員参加による議論	平井 龍太郎
	第3回 12/4 (水) 13:00-17:30	【パネルディスカッション】 テーマ①:「事例に基づく商社リスクマネジメントの今と将来」 テーマ②:「インフラビジネスにおけるビジネス構築の機能と課題」 事前に提起された課題と発表・全員参加による議論 【ラップアップ・セッション】	平井 龍太郎 橋本 政和 河西 敏章